

ばらつき（出来形・品質）の判断について

1. ばらつきの判断の考え方

(1) ばらつきの判断対象となる測定項目

① 出来形

例) 主たる工種が「道路改良」の場合		
工種	測定項目	規格値
道路土工	基準高	±50
	法長ℓ	-200
	幅 w	-100
路床置換工	基準高	±50
	置換厚さ t	-50
	幅 w	-100
下層路盤工	基準高	±50
	厚さ t	-45
	幅 w	-50
上層路盤工	厚さ t	-45
	幅 w	-50
表層工	厚さ t	-9
	幅 w	-25

- ・延長は、対象外
- ・規格値が、「設計値以上」は対象外
- ・舗装の幅 W は、両側に構造物（排水施設）がある場合のみ適用

② 品質

対象となる品質管理項目及び工種		
工種	測定項目	規格値
コンクリート (吹付工・現場吹付法 枠工は設計図書による)	スランプ試験(5cm以上～8cm未満)	±1.5cm
	スランプ試験(8cm以上～18cm以下)	±2.5cm
	スランプ試験(2.5cm)	±1.0cm
	空気量測定	±1.5%
アスファルト舗装	現場密度の測定	94%以上
路上表層再生工	現場密度の測定	96%以上
排水性舗装工	現場密度の測定	96%以上
透水性舗装工	現場密度の測定	94%以上
プラント再生舗装工	現場密度の測定	94%以上
〃再生アスファルト処理	現場密度の測定	93%以上
下層路盤工	現場密度の測定	93%以上
上層路盤工	現場密度の測定	93%以上
セメント安定処理路盤	現場密度の測定	93%以上
路上再生路盤工	現場密度の測定	93%以上
路床安定処理工	現場密度の測定	設計図書
表層安定処理工	現場密度の測定	設計図書
補強土壁工	現場密度の測定	90%以上他
河川土工	現場密度の測定	90%以上
海岸土工	現場密度の測定	85%以上
道路土工(路体)	現場密度の測定	90%以上
〃路床構造物取り付け部	現場密度の測定	90%以上他

- ・現場密度の設計値は、基準密度（試験個数による基準密度）または最大乾燥密度とする。
- ・上記工種以外の品質管理項目は、設計図書によるものとする。

(2) ばらつきの判断の方法

① 当該工事に複数の工種があった場合

- ・工種が複数ある工事においては、管理基準に基づくすべての工種が対象となります。

また、出来形、品質等の管理項目が多数ある場合には、これらの総計（出来形は出来形管理 に関する総計、品質は品質管理に関する総計）が範囲に含まれるかを総合的に判定して評価することとなります。

検査員は、主たる工種を評価対象とします。

※工種：工種明細表のレベル2

② ばらつきが50%（80%）の範囲内と判断する方法

- ・50%（80%）の範囲内に全点の8割以上が収まっていれば、範囲に含まれるものとして扱うこととします。

なお、受注者は、出来形管理と品質管理の事例を参考に下記の表を作成する必要があります。

③出来形管理（道路改良工事L=190m）の事例

工種及び管理項目		全測定数	50%範囲内の測定数	80%範囲内の測定数	備考
道路土工	基準高	15	12	15	40mにつき1カ所
	法長	5	5	5	〃 中心線及び端部
	幅 w	5	3	5	40mにつき1カ所
路床置換工	基準高	5	5	5	40mにつき1カ所
	置換厚さ t	15	10	12	〃 中心線及び端部
	幅 w	5	3	5	40mにつき1カ所
下層路盤工	基準高	15	4	15	〃 中心線及び端部
	厚さ t	1	1	1	200mにつき1カ所
	幅 w	3	1	3	80mにつき1カ所
上層路盤工	厚さ t	1	0	1	200mにつき1カ所
	幅 w	3	1	3	80mにつき1カ所
表層工	厚さ t	2	2	2	1,000㎡につき1カ所
	幅 w	3	1	3	80mにつき1カ所
合計		78	48	75	
割合			62%	96%	

- ・このケースでは、50%範囲内の測定数が8割を超えず、80%範囲内の測定数が96%と8割を超えたため、規格値の概ね80%範囲内と評価されます。

50%範囲内の測定数が8割を超えた場合に、50%範囲内と評価されます。

④品質管理の事例

- ・別紙工事成績評定 出来形・品質のばらつき判定考査表を参照。